

<金標準、円安の支援でも介入警戒感で 8900 円止まり・・・>



(出所：オアシス)

FOMC から始まり、パウエル FRB 議長の半期に一度の議会証言、ECB 年次フォーラムと続く中で、パウエル FRB 議長は年内 2 回の利上げを示唆し、ラガルド ECB 総裁は 7 月の利上げを示唆するなど欧米金融当局者はタカ派の発言を続けている。しかし植田日銀総裁は日銀金融政策決定会合と ECB 年次フォーラムでも緩和策の継続を示唆するハト派の発言を続けた事で金利差に目を付けた円キャリートレードが活発化するなど、円ドル相場は 145 円台を付ける円安の動きを加速させている。特に NY 金は金利高：ドル高の悪影響を受けて一時 1900 ドルを割り込むなど低下を示しているが、金標準先物は円安の恩恵を受けて 8905 円まで高値を試している。しかし昨年 9 月に 145 円で財務省が円買い介入を実施しており、145 円には警戒ムードも強まりを見せている事から 8900 円を超える場面では利食いに抑えられる値動きを見せるなど、8900 円以上では利益確定の動きが妥当に思われる。

<テクニカル>

金標準先物の日足の MACD や RCI では、MACD は **MACD** と **シグナル** が重なりながら維持しており、RCI は **短期** が上昇し、**長期** は +69% で維持するなど、依然と強気を維持した状態である。ただ **10 日移動平均線** と **40 日移動平均線** の乖離が縮小しており、突発的な調整安には注意が必要と思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 3,250,000 円(2023 年 7 月 3 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 89,760 円(2023 年 7 月 3 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>